

インターバンクの声（2014 年 7 月 9 日）

前日に続き米国発の材料が少ない市場にあって、アジア時間の終盤から発表され始めたユーロ圏の経済指標の内容も良くなかったことから、欧州株価が軒並み下落した。実態を追って見ると、配当落ちの銘柄が下落したことも大きかったようだが、航空大手による欧州航空機大手エアバスに対する発注のキャンセルや、その他のナショナル・フラッグ・キャリアーである大手航空会社の相次ぐ業績見通しの引き下げが引き金だったようだ。さらに欧州の名だたる大手銀行が米政府と経済制裁をめぐる違反について多額の罰金の支払いが生じるとの懸念が広がり、銀行株も売り込まれた。

こうした状況下では、さぞかしユーロにも売り圧力が掛ると思いきや、意外にも 1.36 ドル近辺にしぶとく収まっている。1.36 ドルのストライクでニューヨーク・カットに大きなオプションが控えているとの噂も影響したようだ。米株価も欧州株価の下落や前日同様に企業決算を見極めたいとする動きに下落、米国債利回りも低下した。こうした動きに為替市場でまともに影響を受けたのがドル円相場。どうにか 101 円台半ばで下げ止まっているが、市場のセンチメントは足元でまだ円買いだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。